

2 実際に見てみよう

歴史的景観資源の立地・構成パターン別に、上手に活用されている事例を紹介します。

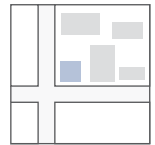
(1) 歴史的建造物

歴史的建造物は、格子状の街区の様々な場所に位置しており、時の流れの中で各々の時代の街かどを演出してきました。立地パターンごとに、歴史的建造物の雰囲気を活かした街かど景観を見ることができます。

2

街かどの歴史的景観資源を見てみよう

① 角地に位置する場合



眺望が確保されています

隣接する建物がピロティを設けることで、見通しが良くなり、歴史的景観資源を歩きながら楽しむことができます。



デザインが調和しています

外観のデザインや軒線、階高を歴史的景観資源と協調させることで、街かど景観としての連続性や一体感をつくり出しています。



壁面線の位置やスカイラインが連続しています

隣接する建物が、壁面の位置やスカイラインを歴史的景観資源と協調させることで、連続性やリズム感をつくり出しています。

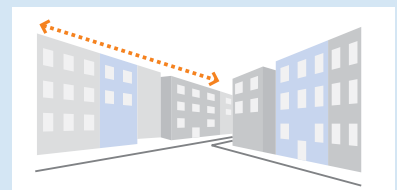
工作物等の配慮が見られます

地下通路の出入口の素材がガラスのため、周囲に溶け込み、歴史的景観資源への見通しが良くなっています。また、歩道の素材や色彩も調和しています。



街並みに一体感を出したい場合

歴史的景観資源と周辺の建物のスカイラインや軒線、階高を協調させると、街並みの一体感や連続性を創出することができます。



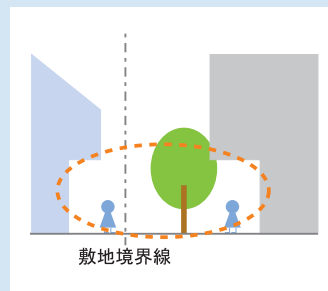
空間の一体性が見られます

隣接した建物が、時計台側に大きな開口部を設けるとともに、広場をつくることで、時計台と一体となった空間が生まれています。



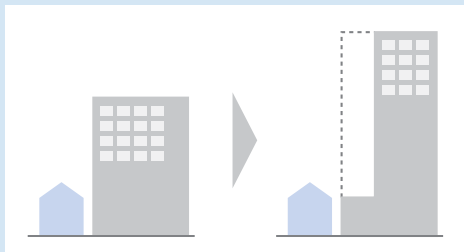
空間の一体性

隣接して建物を配置する場合は、歴史的景観資源側に眺めることができる場所や、敷地境界を感じさせずに使える広場をつくることで、空間の一体性を生むことができます。



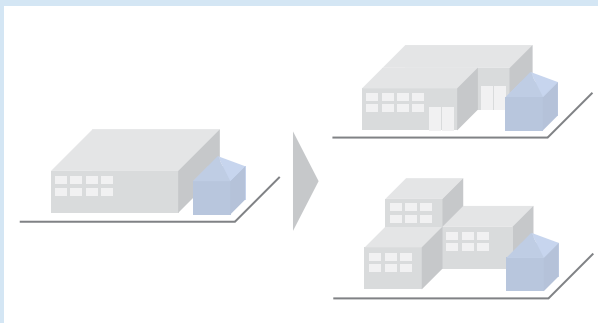
空間づくりの工夫①

隣の敷地に高層の建物を建設する場合、高さを検討したり、高層となる部分をセットバックさせるなど、建物の形態や周辺からの見え方を考えることで、歴史的景観資源への圧迫感を与えないようにすることができます。



空間づくりの工夫②

大きな建物が敷地ぎりぎりに張り付いて建つと閉鎖感を与えます。道路側や歴史的景観資源側へ空地を取ったり、建物を分けたりすると、空間を広く感じることができます。



ご活用
ください

第2章における水色の部分は、周辺で新築、増築などを行う際の、歴史的景観資源を活かすための設計のポイントです。